



# かがやき

～一人一人のウェルビーイング～

えるくる  
がばしえ  
んがさた  
かかやき

時津町立鳴鼓小学校  
学校だより R6年度第8号

令和6年9月5日  
文責：校長 今井大輔

## 第2学期のスタートにあたり

4月当初より、子供たちのウェルビーイング向上を目指し、「幸福感」や「幸せ」について話す機会を設けています。  
今回は、始業式で慶応大学の前野先生が提唱されている「幸せの4因子」を参考に、「幸せになるための4つの言葉」を紹介しました。この4つの言葉は、子供たちが自分らしく、そして周りの人たちとも良好な関係を築きながら、より豊かな学校生活を送るためのヒントとなるはずです。  
「やってみよう！」

挑戦することの大切さ、目標に向かって努力することの喜び。

「ありがとう！」

感謝の気持ちを育み、周りの人たちのつながりを深めること。

「なんとかなる！」

ポジティブな思考を持ち、困難な状況にも立ち向かう力。

「ありのままに！」

自分自身を大切に、周りの人と比べることなく生きる。

一般的に日本人は、慎重で協調性を重んじる傾向があります。しかし、常に完璧を求めたり、周りの目を気にしすぎたりすることで、ストレスや悩みを感じやすくなる可能性もあります。

これらの「幸せになるための4つの言葉」は、そうした傾向を意識しながら、より自分らしく、そして幸福感を持って生きていくためのヒントとなるでしょう。

本校では、教職員もこれらの言葉を意識し、子供たちと積極的にコミュニケーションを取り、温かい雰囲気づくりを目指しています。また、子供たちだけでなく、教職員もこれらの言葉を胸に、この2学期を充実したものにしていきたいと思えます。

## 児童代表の発表

始業式では、1年生の嶺悠大さん、前田ひなたさん、4年生の松山日虹さん、西崎瑠空さんが、「夏休みの思い出と2学期にがんばること」を発表しました。楽しかった夏の思い出や、これまでの頑張りを振り返りながら、2学期に向けた意気込みを力強く語ってくれました。きっと、発表を聞いた在校生たちも、それぞれの心に決意を新たにしているのではないでしょうか。



## 第2回学校運営協議会

学校だより第5号でお知らせしたとおり、鳴鼓小学校は今年度からコミュニティ・スクールとしてスタートしました。8月28日（水）に開催された第2回学校運営協議会では、子供たちのためにどんなことができるのかを熱心に議論しました。委員の皆様からは、子供たちの成長を願う温かいアイデアや建設的な意見が数多く寄せられ、活気あふれる会となりました。まるで同日に行われたソフトバンク戦ながらの熱気に包まれ、活発な意見交換が行われました。今回の議論を踏まえ、次回の第3回学校運営協議会では、具体的な活動内容や実施方法を検討し、より良い学校づくりに向けて一歩を踏み出します。詳細については、後日改めてご報告いたします。

## 嬉しいお知らせ

先日、地域の方から嬉しいお知らせをいただきました。夏休み最終日の9月1日（日）、左底公園の清掃活動にご尽力されていた地域の方を、本校6年生の中島廉太郎さん、渋谷陸音さん、米原巧馬さんの3名が手伝ったそうです。これまでも、本校児童による公園のごみ拾いのご報告をいただくことが度々あり、大変嬉しく思っております。地域のために積極的に活動する子供たちの姿は、周囲の人々に大きな感動を与えます。この度の3名の児童の素晴らしい行動を心より称えたいと思うとともに、今後も地域社会の一員として、奉仕の精神を持って積極的に活動してくれることを期待しております。

## つばやき

夏休み中、先月末で1歳になった孫との時間をたっぷり過ごすことができた。日々の成長は目覚ましく、本当に驚きの連続だ。「手づかみで食べるようになった」「痛い目にあつた所を触る時は、慎重になる」など、昨日までできなかったことが次々とできるようになり、成長の早さに感動した。特に、「ばあば」と言葉を発したり、「バイバイ」の仕草をしたりするようになった時は、とても嬉しかった。まるで、目の前で新しい発見がある宝探しをしているような毎日だった。しかし、子育ては楽しいことばかりではない。病気で夜泣きが続いたり、赤ちゃん返りをしたりすることもあった。それでも、孫の成長や笑顔を見ていると、つらいことは吹き飛んでしまう。子供は、試行錯誤を繰り返しながら成長していくものだと思えて感じた。子育て真っ最中の保護者の皆さまも、きっと同じように日々奮闘されていることと思う。独り立ちするまでの短い間、お子さんの小さな成長を一緒に喜んであげてもらえると嬉しい。